

医療保健業の事業者・働く皆様へ

職場でどのような労働災害が発生しているかご存じですか？

防ごう職場の労働災害

福岡県内において医療保健業における休業4日以上死傷者数は、増加傾向にあり、令和2年12月末、**370人**が負傷し、「**転倒**」・「**動作の反動、無理な動作**」・「**墜落、転落**」が5割を占め、災害の程度では**休業1月以上**が4割となっています。

令和2年（速報値）
医療保健業における
事故の型別ワースト3

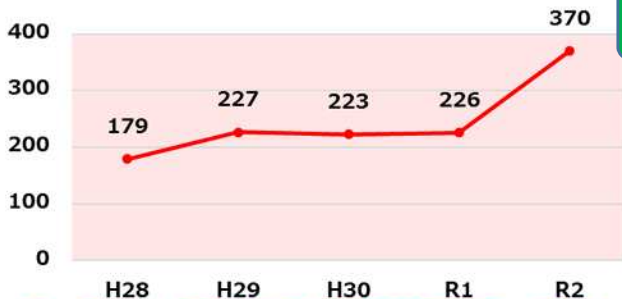
転倒

動作の反動、
無理な動作

墜落、転落



医療保健業労働災害推移（各年12月速報値）



各年12月末までに受理した労働者死傷病報告受理件数（1月から12月労働災害発生分）

転倒防止

イライラしたり、早くという思いが強いと足元確認がおろそかになり、段差や濡れた床を軽視しがちになります。

「あなどらず」「あわてず」「イライラせず」

落ち着いて行動しましょう！



転倒災害の原因

安全衛生に関する総合情報
（職場のあんぜんサイト）

職場における安全対策について



滑る

床が滑りやすい素材である、あるいは凍結している

床に水や油が飛散している

ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている



つまづく・引っかかる

床の凹凸や段差

床に放置された荷物や商品など

床に置かれた電気コード等配線



転倒災害防止対策



踏み外す

大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態での作業

「危険ステッカー」で
危険の見える化を！

職場を「危険マップ」で
危険の見える化を！

転倒危険！



【コメント】
両手で荷物を
持つての移動は
転倒危険！

腰痛危険！



【コメント】
商品段ボールの取
扱は、作業姿勢に
注意！

職場の平面図等に労働災害発生危険のおそれのある箇所を明示して、注意を喚起する。



危険箇所表示用ステッカー＆マーカー

腰痛予防対策のポイント



ストレッチを中心とした腰痛予防体操を行う。

長時間立ったままでの作業を避け、1時間に1・2回程程度の小休止・休息を取る。

床に座って行う作業は、できるだけ避ける。

椅子は、体格に合わせ、座面の高さ、奥行き寸法、背もたれの寸法・角度、肘掛けの高さなどを調整する。等

職場における労働衛生対策について



転倒、墜落・転落災害防止のポイント

医療保健業の労働災害防止
(看護従事者の腰痛予防対策)

通路、階段、出入口に物を放置しない。

床の水たまりや氷は放置せず、その都度除去する。

作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選択する。

階段には、滑り止めや手すりを設ける。

作業開始前にストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れる。

確認してから次の動作に移ること、走らないことを徹底する。

ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止する。

踏台、はしご及び脚立は、安定した場所で、正しい使用方法で用いる。

倉庫などの高所の床の端には、周囲に手すりや柵を設ける。

ヒヤリハット情報を活用し、転倒しやすい場所等の危険マップを作成し、危険情報を周知し共有する。

エイジフレンドリーガイドライン

高齢労働者が安心して安全に働ける職場環境づくりに取り組み、健康づくりを推進しましょう



エイジフレンドリーガイドライン

R2(12月末の速報値)、60歳以上(1,473人)の労働災害について年齢別の割合で約3割を占める。災害の程度別では、休業1か月以上が6割超え。事故の型では、「転倒」、高所からの墜落・階段からの転落が5割を占める。

福岡県 年齢別労働災害の推移 (休業4日以上)の死傷者数

